

## 2024年度 在外研究制度 研究員

所属	氏名	職位	種別	期間	主たる研究国	主たる研究先	研究題目	研究報告
文	笹川 渉	教授	長期 (1年)	2024.9.1 ～ 2025.8.31	イギリス	ヨーク大学	「1642年から1685年における、印刷本と手稿を中心としたソロモン王の表象」および「ジョン・ミルトンの詩作品と政治・宗教の関係」	英国ヨーク大学に客員研究員として在籍し、初期近代英詩を中心に、同時代の政治・宗教との関連および手稿における受容について研究を進めた。大英図書館やオックスフォード大学ボドリアン図書館における資料調査を通じて、英国の詩人ジョン・ミルトンの作品が手稿の中で筆記・再解釈されていた実態を明らかにし、印刷本では捉えきれない受容の一形態を検証した。
文	REIMANN, Andrew N.	教授	長期 (1年)	2024.4.1 ～ 2025.3.31	①ドイツ ②イギリス ③カナダ	①ボン大学 ②ロンドン大学 ③キャビラノ大学	Intercultural Communication Language Instruction Language Program Design and Coordination	I visited three universities in three different countries, Germany, England, and Canada. The purpose was to learn about differences in teaching Cross-cultural Communication and English Language Program Building. Each institution provided valuable resources and a unique perspective. I was able to learn much through research and interaction with other faculty and students that can be directly applied to programming building in Japan and developing effective methodologies and materials for innovative and insightful classes in Japan.
経済	松本 茂	教授	長期 (1年)	2024.9.5 ～ 2025.9.4	スペイン	バルセロナ自治大学	時間制約下で持続可能なライフスタイルを提案することを目的とした国際共同研究	2024年9月から2025年8月にかけてバルセロナ自治大学で在外研究を実施し、Jesús Ramos-Martí n 教授との共同研究を行いました。家計消費データとセンサスデータを組み合わせることで、人口動態の変化が家計のエネルギー消費パターンに及ぼす効果を評価する新たなモデルを開発し、スペインのデータに適用しました。成果論文は査読者からの改訂要求を受けて、現在専門誌に再投稿中です。また、2本目のWorking Paper もほぼ完成済みなので、近々専門誌に投稿の予定です。
法	MENNIM, Paul	教授	短期 (6 か月)	2024.4.1 ～ 2024.9.19	ドイツ	フンボルト大学	1) To investigate German native speaker's knowledge of English politeness strategies. 2) To research German students' oral output as it relates to self-correction. 3) To exchange ideas about English teaching with German colleagues.	My research into students' L2 politeness strategies, continued at Humboldt university, has resulted in a paper: "A study of politeness strategies in Japanese students' L2 English emails" currently in press in 青山スタンダード論集20号
法	浜辺 陽一郎	教授	長期 (1年)	2024.8.28 ～ 2025.8.27	アメリカ	ニューヨーク大学法科大学院	企業ガバナンスにおけるESG投資とESG訴訟に関する諸問題	研究課題はESG投資。英文エッセイ“Focusing on ESG Could Prevent Disasters Like Fukushima,” USALI Perspectives ,5, No.11, July 20, 2025を掲載。本年の国際商取引学会で「米国における「ESG投資」の変容とその国際的波及効果」を報告予定。来年6月開催の日米法学会で「米国の反ESG政策と「ESG投資」の現在」をテーマにコーディネーターを務め、報告予定。その他、順次、日本の学会誌等で研究成果を発表予定。
国際政治経済	岡部 智人	准教授	長期 (1年)	2024.4.1 ～ 2025.3.31	フランス	リール大学	アフリカ諸国についてのマクロ経済研究	アフリカ諸国を想定した経済成長と内戦に関する理論研究に取り組み、リール大学経済経営研究科セミナー（2024年5月）およびリール大学・ジェラール・ドゥブルー記念シンポジウム（2024年9月）にて中間報告を行った。また、研究成果をワーキングペーパー（Tomohito Okabe, "Economic Growth with Endogenous Political Violence", LEM Discussion Paper ,No.2025-1, 2025.）として公刊した。
社会情報	石田 博之	教授	長期 (1年)	2024.4.1 ～ 2025.3.31	ドイツ	ルートヴィヒスハーフェン経済大学	ヨーロッパのエネルギー安全保障政策とアジアへの適用可能性	ドイツのルートヴィヒスハーフェン経済大学、東アジアセンターを受け入れ研究機関として、一年間の在外研究を行った。複数の国際学会に参加して海外研究者との交流・意見交換を行いつつ、エネルギー安全保障をめぐる近年の研究状況、ドイツやヨーロッパにおける実際の政策動向とその応用等について、文献等を調査しつつ研究を進めた。
地球社会共生	古橋 大地	教授	長期 (1年)	2024.9.1 ～ 2025.8.31	イタリア	ミラノ工科大学	Implementation of Decentralized Geospatial Information Sharing Technology for the Democratization of Maps	小型PCデバイスRaspberryPiを用いた分散型地理空間情報共有技術を開発・公開。国連UNGSC及びUN Open GIS Initiative と連携しオフライン地図サーバUNVT Portableの開発や、大容量データ配信実験、6回の国際会議登壇と関連機関との連携強化、論文発表を達成。